

国際学会出席報告書

弘前大学農学生命科学研究科
修士課程2年 大崎晴菜

23rd Evolutionary Biology Meeting at Marseilles は、9月24日～27日の日程で、フランスのマルセイユで開催されました。本学会は、生物進化研究協会（AEEB）を主催とし、進化生物学における一般の科学情報と研究成果に関する意見交流を促進するための科学と社会の文化交流を目的に、毎年開催されている国際会議です。

今大会において、私は「Variation in the competitive environment of host plants promotes resource partitioning in leaf beetles」というタイトルで、植物間相互作用が昆虫の餌選択に与える影響について、これ

までの研究成果をポスターにて発表しました。現在、農作物の害虫防除では、害虫の適応進化が起こるたびにこれまでの防除方法が適用できなくなってしまうことが問題のひとつとなっており、近年では、生物の進化を考慮した生物管理の必要性が指摘されています。今回の国際学会では、植物間相互作用が植食性昆虫の資源利用に対して植物間相互作用を考慮する重要性について、私の研究結果とアイデアを示すとともに、海外の進化生物学における一般的な見解や最新の知見について情報交換を行うことができました。

これまで国内で参加してきた学会では、生態学一般的な観点での議論が主でしたが、今回の国際学会では主に、進化生物学の観点から論究し、害虫の適応進化の問題に対するアプローチについても考えを深めることができました。

私以外の発表では、資源利用に関する体内の生理活性に着目した研究などがあり、私の研究対象であるハムシについても、資源利用様式に関与する体内の生理活性にも注目する参考になりました。発表される研究対象の生物も様々で、動植物だけでなく菌やウイルスなど幅広い生物群に関する研究に触れることができ、貴重な経験となった。

4日間の発表の合間の昼食、夕食時にも、絶え間なく議論が交わされ、大変刺激的な学会期間を過ごすことができました。また、学会終了後には、進化論を提唱したチャールズ・ダーウィンが生前過ごした家にも訪れ、当時の生活や自然環境を感じるこ



写真1. 学会会場のマルセイユの旧港。

とができました。同じ生物学を志すものとして大変感慨深い経験となりました。

今回、貴財団の渡航旅費援助により、初めて海外で開かれる国際学会に参加することができ、これまでにない熱い議論を通し、研究に対するモチベーションを得ることができました。大学に戻ってからは、早速、指摘を受けた点を踏まえて、新たな実験を計画し、現在もまさにデータを蓄積しているところです。この度はご支援いただきましたこと、重ねてお礼申し上げます。修士課程修業後は博士課程に進学し、今後もこの研究を発展させ、農業の発展に貢献していきたいと考えております。



写真2. ポスターセッションにてディスカッションする様子。